

「ゆかし」調べ、「富裕層」2軒目に意欲、セカンドハウス需要目立つ

富裕層マーケティング支援のアブラハム・グループ・ホールディングス（東京都港区）が、金融資産1億円以上の富裕層162人に住まいや住宅購入に関する意識調査を実施したところ、持ち家率が66.5%にもかかわらず全体の過半数が住宅購入に意欲を示していることがわかった。

希望する物件属性で最も多かったのがマンションで23.5%。購入予定時期は「いい物件があったら随時検討したい」が11.1%と最も多く、用途としては「セカンドハウス」「投資目的」「レジャー用」などが目立った。

平均予算は1億4000万円。物件の広さは「100平方メートル超」を希望する回答が最も多く、次いで「90平方メートル～100平方メートル」となるなど広めの物件に人気が集中した。住みたいエリアは港区と渋谷区がトップを占めた。マンションのほかは新築戸建て（17.3%）も人気があった。

調査時期は2月1日～13日。同社が運営する富裕層限定のプライベートクラブ「YUCASEE（ゆかし）」会員にインターネットで回答を求めた。